

音楽発表会…「飽きない」 その① 2020. 3. 11

音楽について私が物言いしているのかと、疑問というか、不安というか、躊躇してしまう。

でも、ゴルフの下手な評論家もいるし、食べるだけの料理評論家もいる。…という屁理屈をつけて音楽発表会の感想を書いてみよう。

あくまで私的感想である。そこでの音楽について書くというより、その時の「私」を書く感じである。そのことをご了解のうえお目通しください。

○低学年

一年生の開会のあいさつ…立派過ぎ…もっと下手でいい…と、妙なことを思ってしまう。

低学年は「楽しんでいる」…そう感じる。緊張感はない。一年生はパワフル、二年生は堂々…その感じがなんだかとってもいい。

一年生の振り付け…よかった。ずっと昔、区の音楽会で講師の講評が「歌う、演奏するだけでなく、もっと楽しむ。振り付けがあってもいいし、オペラのようにかけ合いがあってもいい…」この講評を思い出した。

一年生の歌に笛の伴奏があった。「あ、いいなあ」と思った。二年生の歌の時、ベル（あれはベルとっていいのだろうか？）の伴奏があった、「あ、いいなあ」と思った。そういう《バラエティ》がよかった。ステージ全体から「楽しさ」「楽しむ」が伝わってくる。

一年生、二年生はパワフル・堂々、音楽発表会を楽しんでいる。「私たちの音楽を聞いて聞いて、見て見て」という感じ。二年生で体でリズムをとる子が少し出てきた。これもいい。

子どもが文化的活動を楽しんでいる…これがとってもいい。「楽しむ」は音楽の原点である。

(続く)



☆From the Andromeda☆